



群 交 る  
像 錯 声  
す |

「コレクション展 2017・春」

2017.1.27 (金) - 5.7 (日)



吉田 克朗 《Work 9》 1970年 シルクスクリーン、紙

和歌山県立近代美術館

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 FAX 073-436-1337

E-MAIL [moma\\_w@future.ocn.ne.jp](mailto:moma_w@future.ocn.ne.jp) WEB <http://www.momaw.jp/>



## 特集展示 群像－交錯する声

2017年1月27日（金）～5月7日（日）

人間社会に生きる私たちは、他者との多様な関係性の中で暮らしています。家庭、学校、会社など、特定のコミュニティに属することもあれば、不特定多数が行き交う街中などに身を置くこともあるでしょう。ここでは群像劇ともいべき様々な人間ドラマが日々展開されています。

日本では、明治33（1900年）にフランスの心理学者ギュスターヴ・ル・ボンの著書『群衆心理』が紹介されてから、個人とは異なる群衆特有の心理状態に注目が集まります。また、明治期から大正期にかけて、多数の人々を複雑な構図に収めた写実的な西洋絵画が美術雑誌や美術学校における講義等で取り上げられるにつれ、群像の構図や表現についても深く研究されるようになりました。

何人もの人々をひとつの画面に収め、高い構成力が問われる群像表現では、各人物の配置、表情や動きなどの描写に、それぞれの個性や互いの関係性を見ることができます。注意深く見れば、描かれた一人一人の心の声が聞こえてきそうです。画中にひしめく彼らの声は、人生の喜怒哀楽をうたい上げ、社会の中で人が生きることについて、深く考えさせてくれるでしょう。

ここでは、石垣栄太郎《街》（1925年）や高井貞二《エミгранトの街》（1940年）のように街中の喧噪と当時の社会状況を描写した作品、野長瀬晩花《夕日に帰る漁夫 下絵》（1920年）や川口軌外《夏の海》（1940年）など、複数の人体を組み合わせて構図を研究した作品のほか、村井正誠《ならぶ人々》（1975年）や宇佐美圭司《山々は難破した船に似て No.2》（2001年）など、人々の姿を抽象化した作品も展示します。これらを通じて、時代とともに変化する人間のあり方をご覧ください。

### 関連事業

#### ● フロアレクチャー（担当学芸員による展示解説）

1月28日（土）、2月19日（日）、3月20日（月・祝）、4月16日（日）、5月6日（土）  
いずれも午後2時より、展示室にて（※申込不要、要観覧券）

#### ● こども美術館部（小学生向け鑑賞会）

4月22日（土） 午後2時より、展示室にて（※当日開始時間までに要受付）

### 開催概要

会場	和歌山県立近代美術館 1階展示室 B
会期	2017年1月27日（金）～5月7日（日）
主催	和歌山県立近代美術館
開館時間	9時30分～17時【入場は16時30分まで】
休館日	月曜日【ただし3月20日（月・祝）は開館し、3月21日（火）休館】
観覧料	一般340(270)円、大学生230(180)円（ ）内は20名以上の団体料金 *「コレクション展 2017 ー春」と共通 *高校生以下、65歳以上、障害者、県内に在学中の外国人留学生は無料 *毎月第4土曜日（1月28日、2月25日、3月25日、4月22日）は「紀陽文化財団の日」として大学生無料

主な出品作品



1.



2.



3.



4.



5.

1. 村井 正誠 《ならぶ人々》1975年 油彩、キャンバス  
2. 川口 軌外 《夏の海》1940年 油彩、キャンバス  
3. 石垣 栄太郎 《街》1925年 油彩、キャンバス  
4. 川西 英 《神戸十二ヶ月風景 四月須磨桜花》1931年 木版、紙  
5. 福沢 一郎 《鬼も忙し地獄の整地》1974年 油彩、キャンバス

【同時期開催】

コレクション展 2017-春  
本展と同会期

泉茂 ハンサムな絵のつくりかた

【会期】1月27日(金) - 3月26日(日)

【会場】2階展示室

和歌山県立近代美術館

学芸担当：藤本真名美 / 広報担当：島

〒640-8137 和歌山市吹上 1-4-14

TEL 073-436-8690 (代表)

FAX 073-436-1337

E-MAIL moma\_w@future.ocn.ne.jp

WEB <http://www.momaw.jp/>